

「不幸が大きい分だけ、笑顔が美しい。ともに負の遺産を持つ、神戸でやったときにもそう感じました。撮っている僕にも、見る側にも、勇気や希望をくれる」

### 時のひと

「メリー・イン・ニューヨーク」を開いている水谷孝次さん

「メリークリスマス」のメリー。楽しさ、幸せ、希望といったポジティブな感情をその言葉に託した「メリープロジェクト」は、一九九九年に始まった。笑顔とメッセージをさまざまな方法で見せる。今回は五万部の新聞にしてニューヨーク、ロンドンでも同時に配った。

本業はアートディレクター。広告業界に札幌が乱れ飛んだバブル時代を経験した。忙しく働き、数々の賞を受けながらも、むなしさが募った。

「すべては商品売るためのウソ。こんなことはおかしい」と思った。

その後、米国を旅するバスの中で、無邪気な少女たちにカメラを向けたのがプロジェクトのきっかけになった。「笑顔は世界共通のコミュニケーション手段。これこそ最もシンプルで力強い、二十一世紀のアートじゃないかと思っんです」

不況だからこそ「やるべき」とがはっきり見える」と笑う。五十一歳。名古屋生まれ。